

資料4 西の湖の水草、貝類、プランクトンモニタリング結果

森田 尚・藤岡康弘・草野 充・孝橋賢一

1. 目的

西の湖では平成 18 年にオオカナダモが減少してから真珠漁場としての復活が期待されている。また、ニゴロブナやホンモロコの増殖場としても重要であるため、水草の繁茂状況を監視するとともに、貝類や魚類の生息環境の現状を把握するのを目的に調査した。

2. 方法

2019 年 4 月 4 日、5 月 9 日、6 月 6 日、7 月 2 日、8 月 8 日、9 月 20 日、10 月 17 日、11 月 7 日、12 月 17 日、2020 年 1 月 16 日、2 月 18 日、3 月 17 日に西の湖内の 18 定点（図 1）で幅 20cm の鋤簾を 2m 掻いて採取された水草と貝類の湿重量を計測した。また、3 定点（湾奥部 st. 1、湖央部 st. 8、流出部 st. 11）で水質と動物プランクトン（Nxxx25 ネット、

オープニング 40 μ m で表層水 20 リットルを濾過）を調査した。

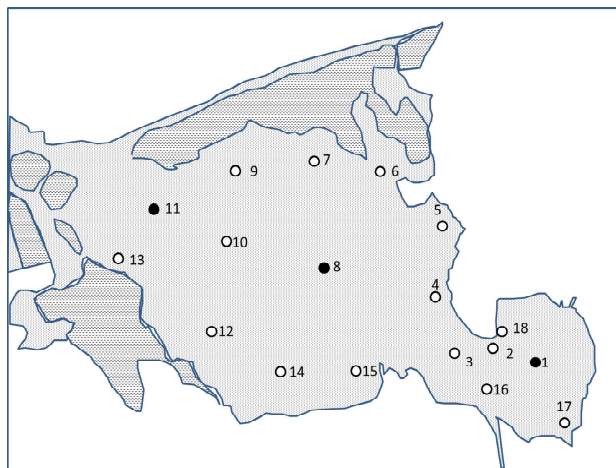


図 1 調査地点

3. 結果

表 1 水草（沈水植物）と貝類

表 2 水質

表 3 動物プランクトン